

第13回

夢を実現する 二人が歩んだ軌跡の 素晴らしさ

このあいだ、余市方面へ出かけた。観光客で満員の小樽行きに飛び乗り、立ちっぱなしで小樽へ。そこから、長万部行き2両編成の列車に乗った。余市まで、混んでいたけれど座ることができてホッとした。

目指すはニッカウヰスキー余市蒸溜所。余市駅からまっすぐ歩いて3分で着く。天気が良かったので、敷地内を散歩しながらまずは奥の方にある博物館へ。

博物館では、創業者の竹鶴政孝と伴侶のリタの二人の人生の記録が展示されている。何年か前に放映されたNHKの朝の連ドラ「マッサン」でも記憶に新しいのではないかと思う。マッサンこと竹鶴政孝がウイスキー作りに魅かれ、リタと巡り会い、さまざまな苦勞をしながら日本のスコッチウイスキーを作り上げていく物語だ。朝ドラは実際とは違う部分もあるらしいが、博物館で展示されている二人が実際使ったイスやテーブルなどを見ていると、朝ドラのいろんな場面を思い出し、マッサンがリタという伴侶を得ることで、大きな夢を実現できたのだと実感する。

博物館でじっくり二人の歴史をたどると、ドラマ以上にドラマチックだ。どう考えてもあの当時、国際結婚であることも、余市でウイスキーを作ることでも大変だったはずだ。そんな二人が残した余市蒸溜所。この広い大きな敷地に佇むと、改めて竹鶴政孝とリタのすごさを感じる。たくさんの困難にも遭いながら夢を実現できる人って、昔も今もそう多くないはずだ。二人の意志の堅さ、実現への情熱、その熱量の多さが今も敷地内に宿っていて、それが、おいしいウイスキーを生み出す所以だと思わずにいられない。

敷地内では数カ所、余市で熟成したウイスキーを味わえる。雄大な自然に囲まれたこの土地の恵みと、二人の情熱が結晶になったウイスキーをしみじみ味わいながら、夢を追うことの素晴らしさも味わうのである。



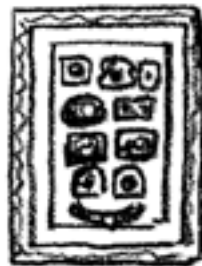
すずき もも

イラストレーター・絵本作家/スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつはたけのごちそうなーんだ?」(アリス館)「おいしい大地、北海道」(イースト・プレス)がある。また、新作絵本「はたけのごちそうなーんだ? くだもの」(アリス館)が4月19日に出版。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにここと」。



リタハウス
中に入るとガサでまな
けとるてきなうち!



ウイスキー標物館で
古トラベルの尾赤は
レトロでいびか小す。

いつかホウモ
大人になつたら
「ウイスキー標物館」
でまじい
ウイスキーを
果しめるよ!

